



神奈川県環境学習リーダー会

会報 No. 51

2006年
6月 7月

役員会報告..... 1	大気環境部会..... 4	の案内..... 7
NPO 法人格取得検討委員募集..... 2	水環境部会..... 5	雨は自然の恵み - 「岳の幟」を見学して..... 8
第5回親子で楽しむ環境展を終えて..... 2	廃棄物 GO3 部会..... 5	南米チリからの便り..... 8
JCCCA 18 年度研修事業へご協力お願い!..... 3	グリーン部会..... 6	リレー登場
部会報告	豆知識のページ..... 6	ロートル新参が気付いた事 9
エネルギー部会..... 3	通信手段と CO ₂ と会報..... 6	いっぱい窪における緑の保全活動..... 10
ケナフ部会..... 4	リーダー会のメーリングリストについて..... 6	掲示板..... 10
自然環境部会..... 4	容器リサイクル法改正についての所感..... 7	編集後記..... 10
	緑区環境教育プロジェクト	

役員会報告

(事務局長 大森 勝)

6月役員会(6月8日)

1. 確認事項
 - 会員数 正会員 165 名(退会 1 名、入会 1 名、賛助から正会員に変更 1 名)、賛助会員 6 名、特別会員 3 名。
2. 付議事項
 - 会計に関する事務取り扱い(報告と審議)
 - ・藤田会計担当が事実上活動不能となったため、大森事務局長と斉藤事務局担当が分担して業務に当たる。
 - 会の NPO 法人化(審議)
 - ・総会の決議に基づき、法人化の目的、運営携帯、問題点等多岐にわたり議論された。
 - 会報に関して
 - ・部会活動報告内容の改善提案があり了承された。
 - 横浜カーフリーデー参加について
 - ・本年度も参加依頼が来ている。参加希望部会を確認のうえ、次回決定する。
 - 環境実践者養成講座の講師派遣依頼
 - ・環境科学センターより当講座のワークショップ講師派遣依頼があり、昨年同様近藤元代表にお願いする。
 - 親子で楽しむ環境展
 - ・環境展を会一丸となって成功させたいとの代表からの要望があった。
3. 報告事項
 - ・横浜市の市民活動共同オフィスをさらに活用してほしいとの要望が担当よりあった。

7月臨時役員会(7月13日)

1. 事項確認
 - 会員数 164 名(退会 1 名)
2. 付議事項
 - 親子で楽しむ環境展
 - ・全会員の協力で成功裏に終えたが、多集客のため次年度開催場所を検討した。しかし、結論が出ず、次回に数箇所絞り検討する。
 - 会計；今後以下の通り運営する。
 - ・各部会会計報告は 6 ヶ月経過後、9 月に行い、その結果を含め会全体会計報告を 10 月に行う。
 - ・各部会次年度申請は 2 月実績見通しをベースに提出し、3 月に役員会で決定する。
 - 会の法人格取得
 - ・前月に引き続き議論を進めた。
 - ・NPO 法人資格検討委員会の目的、スケジュールを明確にした上、委員募集を会報で行う。(会報トップに掲載)
 - 横浜カーフリーデー
 - ・リーダー会として参加する。(特定部会としては参加しない)
3. 報告
 - 広報関係
 - ・原稿締め切りは、7 月 15 日。厳守のこと。
 - ・51 号の会報印刷及び発送は、7 月 30 日役員会協力の元を実施予定。
 - 神奈川県地球温暖化防止活動推進員研修の件
 - ・当会の全面的な協力の下実施する。
 - 横浜市協働事業
 - ・今年度は、申請したが採用されなかった。

NPO 法人格取得検討委員募集

代表 安丸 元一

会員の皆様、日頃は環境活動に、当会発展のためにご尽力頂き有難うございます。

さて、18年度総会におきまして、お伝えしましたように、K・リーダー会は、皆様のご努力により、県下で主要な市民環境活動団体として着実に世間の信頼も高まってきました。当会には、地方自治体の委託事業、協働事業等へと活動の幅を広げる使命があると考えます。この期待に沿うには、個人保証の任意団体では心もとなく、信頼ある組織体制に変革するため NPO 法人格の取得を提案いたします。役員会で議論して参りましたが、NPO 法人格取得検討委員会を発足し、幅広く議論頂くことになりました。ここにその検討委員を公募しますので、よろしく願います。

記

- | | | |
|---------|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 名称 | K・リーダー会 NPO 法人格取得検討委員 | |
| 2. 検討内容 | 当会の理念・方針 | 運営組織 |
| | 定款 | 運営資金 |
| | 会員資格 | その他 |
| 3. 応募資格 | 平成 18 年 7 月末現在の会員（正、賛助を問わず） | |
| 4. 公募人数 | 7 名以内 | |
| 5. 委員待遇 | 交通費実費支給 | |
| 6. 公募締切 | 平成 18 年 8 月 21 日（月） | |
| 7. 応募先 | 代表 安丸 元一 | 事務局長 大森 勝 |
| 8. 応募方法 | 電話/Fax 0467-86-3871 | 045-584-7907 |
| | E-mail: genichi-1@nifty.com | omori-m@msh.biglobe.ne.jp |

なお、最終的な検討委員会の委員・構成については 9 月 14 日（木）の役員会で決定させていただきます。

～ 地球の未来のために ～

第 5 回親子で楽しむ環境展を終えて

代表（実行委員長） 安丸 元一

第 5 回親子で楽しむ環境展(地球の未来のために)は、去る 6 月 17 日、地球温暖化防止活動推進センター普及啓発事業として、かながわ県民活動サポートセンター1 階展示場で開催しました。神奈川県・横浜市、かながわアジェンダ推進センター及び企業、大学生、会員一同のご協力により無事・成功裏に終えました。皆様にお礼を申し上げます。

今年の当環境展は、開催前からの PR で、各新聞に報道され、NHK テレビ - 横浜放送局、テレビ神奈川からの取材を受け、当日夜のニュース番組に放映されましたし、読売新聞は翌日の紙面に写真入りで掲載してくれました。

CO₂削減を訴えるため、横浜市からは昨年に引き続き水素燃料電池車を展示いただき、県環境計画課は環境省「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」の一貫として、キャンドル配布をされました。全国 468 ヶ所・その内神奈川県 34 ヶ所で 6 月 17 日～6

月 21 日（夏至）の間に催された「100 万人のキャンドルナイト」の何処かで、このキャンドルが灯されたことでしょうか。東京ガス様からは、ガス管廃材からペンダント作りで子ども達に喜ばれ、横浜国大生のミミズコンポストは、楽しく自然の循環を教えられました。各会員グループ、各部会からは、この 1 年間の活動状況を工夫凝らした展示で、見る者にとって温暖化防止を始め環境問題への訴えが身にしみました。

今回も、子ども達から「おもしろかった」、「いろんなことがわかった」、「来年も来よう」とのメッセージをもらい、将来を託す世代への期待と、また来年も頑張らねばと励まされました。また大人たちは開会直後から来られ、熱心に展示内容をご覧になり、スタッフからの説明をお聞きになる方々が目に付きましたし、「幅広い環境問題の調査・研究への労い」、「素人にもわかり易く」、「初めて楽しく学びました」等の感想をいただき、開催したことに内心誇りを感じた次第です。そして外国人留学生が、「ふるしき」「かるた」「紙管で貯金箱作り」等、古来からの日本文化に興味を持ち、体験していたのは印象的でした。多少とも国際貢献ができたと自負しています。

早速 6 月 26 日に反省会を開催しましたが、新規性あるテーマ・催しに欠ける。参加団体を多く募るべきだ。集客・特に大勢の子ども達へ訴えるには開催会場を検討すべきだ等厳しい指摘がありました。

JCCCA 18 年度研修事業へご協力 お願い!

KCCCA 安丸 元一

K・リーダー会の皆様、日頃は地域の環境活動にご尽力・ご苦労様です。また、神奈川県温暖化防止活動推進センター(KCCCA:NPO 法人かながわアジェンダ推進センター)の活動にご協力・有難うございます。

さて、既に各方面からご報告していますが、全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)の地球温暖化防止活動推進員等への研修事業が今年も始まりました。三研修に分かれて開催しますので推進員、或いは応募される皆様のご参加、ご協力をお願いします。

部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動予定('06 年 8 月 ~ '06 年 9 月)

1. 定例部会(於: 県民サポートセンター)

8 月 9 日(水) 13:10~15:00 702 号室

9 月 13 日(水) 13:10~15:00 702 号室

2. 子ども環境体験教室

「節電コンセントを作ろう」

神奈川県環境科学センター主催の上記体験教室に、今年もアース・エコと共同で取り組む。

日時 8 月 19 日(土) 13 時 ~ 16 時 30 分

場所 神奈川県環境科学センター

活動報告('06 年 6 月 ~ '06 年 7 月)

6 月度定例部会:

6 月 14 日(水) 13:00~15:00

場所: 県民サポートセンター 708 号室

参加者: 岩澤、小田、大森、鎌田、北村、児玉、中島、安藤、

「親子で楽しむ環境展」最終打ち合わせ。

情報交換

「アメリカ合衆国での CO2 削減の取り組み」

< 「アメリカの参加しない京都議定書や温暖化防

この様な反省をもとに、早々 19 年度に向けてスタートしますので、全会員の参加は勿論のこと、参加いただく各種団体の更なるご協力をお願いします。

(1) 地域実践研修は 7 月 20 日からスタートし、多くの K・リーダー会の皆様にご出席頂きまして、ご苦労さまでした。引き続き第 2 日目を 8 月 16, 18 日に開催しますので、ご参加をお待ちしています。

(2) 基礎実践研修は第一回を 9 月に、第二回を来年 1 月に予定しています。その詳細は同封しました「基礎実践研修のお知らせ」をご覧ください。講師は 8 人中 6 人は K・リーダー会会員にお願いしています。皆様のご参加をお願いします。

(3) 専門実践研修は 10 月、11 月に予定しており、K・リーダー会からは、昨年に引き続き大気環境部会が参加します。いずれ詳細計画ができましたらご報告しますので、その他の部会等、皆さんの応援をお待ちしています。

止なんて」と言う風潮への反論と、日本より先を行く自治体の事例を知るために情報交換した > アメリカ合衆国は京都議定書から離脱している。しかし、多くの自治体が果敢に取り組んでいる。例: 全米市長会が京都議定書のアメリカ削減目標に対応する(1990 年比 7% 減) 協定を成立させた(05 年 6 月)。これに参加する市は日々増加、今年 7 月 14 日現在 266 市(住民合計 47 百万人)に及ぶ。

例: カルフォルニア州では、2050 年での温暖化ガス削減目標を 80% とする。

その為に、再生可能エネルギーの導入目標を 2010 年に 20%、2020 年に 33%。太陽光発電設置目標を向こう 10 年間に 3000MW(補助金 29 億 \$)

自動車排出温暖化効果ガス規制強化の方向(他の州も同調の動き)

例: 北東部 7 州

ニューヨーク州等が、火力発電所対策を中心に削減。それを進める仕組みも含めて北東部 7 州が参加。

7 月度定例部会

7 月 12 日(水) 13:00~15:00

場所: 県民サポートセンター 708 号室

参加者: 北村、大森、児玉、鎌田、小田、藤木、中島、安藤

親子で楽しむ環境展の反省
展示内容、方法ともに一新すべく取り組んだ。
かけた労力の割りに来場者が少ない
呼び込みを行っても成果が少ない。

来年続行であれば、場所、時期から検討を要す。
「子ども環境体験教室」の打ち合わせ

ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった 2006 年 6 月～7 月までの活動及び 8～9 月の予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

6 月 9 日 ケナフ部会定例会

6 月 17 日 環境展参加

6 月 21 日 ケナフ苗移植

7 月 7 日 環境科学センター「子ども環境体験教室」に使う材料を環境科学センターに持参
ケナフ畑の草取り等圃場管理

7 月 20 日 ケナフ部会定例会 環境科学センター主催、7 月 27 日開催の子ども環境体験教室「写真立てを作ろう」の準備

7 月 27 日(木)環境科学センター主催 子ども環境体験教室「写真立てを作ろう」参加

2. rewood クラブの活動状況

rewood クラブは相模原市の日本化工機材(株)

内で REWOOD 工房内で原則として、毎週火曜日、木曜日に開催していますので、紙管で何か作りたい方、及び材料が欲しい方は、
荒谷 (tel/fax 042-754-3256) にご連絡ください。
なお、最近の作品は
<http://members2.jcom.home.ne.jp/rewood/whatsnew.html>
からご覧下さい。

3. 今後の予定

8 月 18 日(金)ケナフ部会定例会

8 月 24 日(木) 環境科学センター主催 子ども環境体験教室「ケナフを使った自分だけの八ガキを作ろう」参加

4. お願い

最近、生分解樹脂製品が注目をあびています。(たとえば日経 7 月 14 日では植物繊維で金属並み強度等、) どなたかこの辺の情報をお持ちの方は教えて頂けませんか。

自然環境部会

部会長代行 内藤 克利

部会長不在のため、内藤が代行をしております。
藤田 新 部会長が就任後に離日し「親子で楽しむ環境展」までは近藤さんに部会を指揮していただきましたが、残念ながら現在は部会の活動方針を

まとめていく体制がない状態です。

今後の活動方針・体制に関して、部会員各自よりの発案を待っています。また同部会に興味あるリーダー会会員の方々からも、発案および支援を期待しておりますので、どうぞよろしくご協力のほどお願いいたします。

大気環境部会

部会長 猪股 満智子

新ホームページ ご覧になりましたか！
より精度ある見やすい map をめざします

活動報告(6月～7月)

6 月 1 日(木)夕～2 日(金)夕

NO₂ の 24 時間測定 319 本実施

6 月 10 日(土)13:30～16:00 KERC 実習室

NO₂ 分析 20 名出席

18 年度から、各行政区ごとに「市民が日常、行

き来する頻度の高い場所を共通に持ち、比較してみる」という視点で、一般環境大気局、自動車ガス排気局、小学校、主要駅前、主要交差点、純住宅地道路の共通 6 地点を必須測定点化し、その他の測定点と併せて見やすい map 制作を目指します。6 地点を浮彫りにすることから、map 上では測定点の数を少々精査、整理することになります。

6 月 17 日(土)9:00～17:00 県民センター 1F 展示室

当会主催「親子で楽しむ環境展」に出展

テーマ;家庭で一番 CO₂ を出しているのは車、で

は大気汚染は？

6月29日(木)13:30～16:40 NPOセンター大船
VOC/PRTR プロジェクト

出席；井上、猪股、長村、草野、立石、村上

18年4月より規制開始されたVOC揮発性有機化合物について分かりやすくホームページに掲載、また先行のPRTR制度を活用しデータ化、市民への啓発を行いたい

7月6日(木)13:30～16:40 NPOセンター大船
マッピングプロジェクト

出席；猪股、長村、近藤、草野、佐伯

NO₂測定点の整理確認と自然度調査 map の入

力手法講習、検討作業

7月21日(金)13～16 KEREC「子ども環境体験教室」
「アサガオ・ツバメで環境チェック」講師役

ツバメ調査書まだ間に合います！

調査期間は7月末までですが、今、第2弾の子育て中の巣も。調査書提出は8月31日、猪股迄

活動予定(8月～9月)

9月21日(木)13:30～ NPOセンター大船

定例部会 6月NO₂測定速報、7月までのPJ報告と確認、ミニ学習会等

水環境部会

部会長 斉藤 昭一

酒匂川探水隊 - 「川のつながりを探る」

今年後半の酒匂川探水隊の活動は、9月17日(日)、10月8日(日)、11月3日(祝)に行う予定である。多くの方のご参加を期待する。

6月25日2回目の探水活動、JR松田駅9時集合、参加人員、杉崎、柳川、村上、古谷、斉藤の5名、杉崎氏の指示に従い小田原市栢山(頭首工)下と成田の2カ所のポイントを調査する。

水温19度、やや冷たい感じの温度である。足場が悪く注意しながら進む。コシダカヒメモノアラガイ、ダビドサナエ、チラカゲロウ、カゲロウ、シマドジョウ、ギンブナ、ハヤ、たくさんのエビ類、サワガニ、トビゲラ、シマイシヒル、等を採用した。頭首工の上、禁猟区に恐る恐る近寄って見たが魚影の影さえみることができなかった。成田に来て魚影をみることが出来てなんとなくホットしたのは私だけではないであろう。頭首工の冷たい鉄の塊の障壁、必然性がある構築されたものであろうが、今年から来年の2年間に掛けて調べる「酒匂川の川の連続

性について」の調査はエビ、カニ類の回遊型のものを中心にした調査である。

現在の河川はどこでも堤、堰、頭首工といった部分で上下が分散されているところが多い。そのため回遊性の種の上流への溯上が危惧されている。エビ、カニ類の分布調査を進めることによって、この川の「つながり」の調査を進めることが今年の活動の目的である。

(石綿研究員調べ)

回遊型(海と川を行き来する)13種；ヌマエビ、ミゾレヌマエビ、ヒメヌマエビ、ヤマトヌマエビ、ミナミテナガエビ、ヒラテナガエビ、オオヒライソガニ、タイワンヒライソガニ、モズクガニ、アカテガニ、クロベンケイ、ベンケイガニ、アリアケモドキ

陸封型(一生を淡水で過ごす)5種1型；ヌマエビ、ミナミヌマエビ、スジエビ、手根がエビ、アメリカザリガニ、サワガニ

尚、昨年に引き続き、コモチカワツボ、フロリダマミズヨコエビの分布調査を継続している。

廃棄物GO3部会

部会長 原園 信夫

- (1) 廃棄物GO3部会報【環6号】を作成し、環境展の日時で神奈川県37市町村に郵送しました。
- (2) 子供環境体験学習への準備分担のための部会と、暑気払いを兼ね、7月10日県民サポートセンターで開催しました。
- (3) 家電リサイクル法の改定に向け、産業構造審議会と中央環境審議会が合同で、第1回会合を6月27日に開催、7月27日第2回、8月3日第3回開催と急ピッチで検討会が開催されま

- す。品目拡大、費用徴収が課題になります。
- (4) 今後とも、情報共有化をメールを中心に図っていきます。



グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

<活動報告>

6月17日 親子環境展出展

6月22日 ミーティング

- ・親子環境展振り返り
- ・講師依頼対応について検討
- ・スーパーへの訪問調査について検討

7月15日

- ・紙芝居を大人向けにするためのシナリオ改定
- ・大人向けワークショッププログラムの検討

= 豆知識のページ =

通信手段とCO₂と会報

エネルギー部会 安藤 紘史

(財)省エネセンターの資料によれば、「250字程度の情報を東京：大阪間で送る場合のCO₂排出量」は次の様な値となり、メールが圧倒的に有利と紹介されている。

パソコンメール:	1.1g
携帯電話メール:	0.1g
FAX(1日1回使用):	41.9g
郵便(自動車便):	24.5g

排出量の差の殆どは、紙のCO₂排出量(23g) FAXの待機電力対応のCO₂排出量(16.3g)に由来する。(注:このデータには、人の排出するCO₂はカウントされていないので、実際の差は更に広がると思われる。)

一方、金額面ではパソコンの通信はどうなっているであろうか。(我家の6月分から算出すると)

6月の送受信概数:700件 発信:150件(発信先数は600件程度) ホームページ検索:400回 合計送受信件数は1700回程度と推定される。支払う料金を月額5000円とすると、送信あたりの単価は約8円、総送受信当りでは約3円となり、経済的にも郵便物やFAXとの差は歴然としている。(乱発の傾向は大いにあるが・・・)

リーダー会のメーリングリスト k-leader@yahogroups.jp に関して

広報部 鎌田 裕二

* グリーン購入ネットワークへ加入しました。

<今後の予定>

次回ミーティングは8月中旬開催予定

- ・昨年作成した子供向け紙芝居を大人向けにも実施できるよう改訂し、説明資料等を追加作成します。
- ・ものの一生を考えながら、環境に配慮した買い物の重要性に気づいてもらう大人向けのプログラムを作成します。
- ・秋ごろ、スーパーでの環境への取り組みについて、お話を伺いに行く予定です。

加えて、最大のメリットは同報性と適度な即応性であり、電話やFAXと違って相手の都合を考慮することもない。今やインターネットなしには(グループとしての)こまめな活動は困難になってきていると言える。

一方、リーダー会全般に渡る活動の中では、会報発行の負荷が大きいと聞く。これをメールにしたらとの声も聞こえてきそう。

しかし、ファイリングして繰り返し読んだり、書き込んだり、持ち運んだりするには、冊子に勝る媒体はない。(メールで配信されたものをプリントしては、環境負荷のメリットも飛んでしまう)また、同一資料を共有することによる連帯感のような意識も貴重なものであろう。

将来、グループ活動が更に活発となり、多くの会員がメールを主体に使うようになった頃は、メーリングリストの同報機能、ファイル機能、掲示板機能が会報のかなりの部分を補完してくれるであろう。そして、その時点では会報の果すべき役割も変わっているであろう。

それまでは手間が掛かっても、会員を結ぶ貴重な媒体である会報発行は続けなければならない。広報部にだけに「おまかせする」のではなく、多くの会員が協力してゆかねばならない・・・メーリングリスト、ホームページ、会報が分担しながら運営される将来の姿を描きつつ。



「メーリングリストとは」複数の人に同時に電子メールを配信(同報)する仕組みで、MLと略される。用途としては、特定の話題に関心を持つグループなどで情報交換をする場合に利用されることが多い。メーリングリストの原理は、登録メンバーの電

子メールアドレスのリストと、メーリングリスト宛ての代表電子メールアドレスを用意し、代表アドレスへメールが送信されると、内容一切をリストに登録された全員のアドレスへ転送するものである。(出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』)リーダー会のように定期的に全員が顔を合わす機会のない集団では有効な道具になりえると考えられる。

既に k-leader@yahoogroups.jp に登録されている会員の方も大勢いらっしゃるようである。その方たちへはMLへの催し情報などの投稿をお願いする。会報の配布は高々二ヶ月に一度である。それでは間に合わない催しなどの情報をMLへ投稿していただければと思う。

会員の広場

容器包装リサイクル法の改正 についての所感

内藤 克利(座間市)

容器包装リサイクル法は生まれて10年、化粧直しの時期になり審議されたがその結果は殆ど変わらず市民の期待は無視されたようだ。市民サイドが背負う分別・収集・保管コストは、事業者の再生コストの倍のままである。但し19項目に亘る付帯決議が採択されたことが今後の改正に有効となるよう祈るのみである。19項目の内 項のみを紹介しながら市民が出来そうな事柄を説明したい。

[詳細は5月26日メール転送した容リ法改正全国ネットNO.73号を参照のこと。]

「循環型社会形成推進基本法の基本原則に則り、発生抑制を最も優先すべきであることを、地方公共団体、事業者、消費者等に徹底するとともに、レジ袋の使用の合理化等に関する事業者の取組状況について十分に把握し、適切な指導を行うこと。また、

リーダー会ではYahooグループのML機能を利用している。MLのみの利用(メールの送受信)ではYahooへのユーザー登録は必要ない。もし普段からEメールを利用されているが、リーダー会のMLへ参加されていない方は、是非、参加していただきたい。

k-leader-subscribe@yahoogroups.jp

まで、参加の意思をメールしていただければ参加できる。

パソコンをお持ちでなく、Eメールは無縁と感じる会員の方もいらっしゃると思う。しかし、リーダー会の役員間でも普段の対話はEメールで行われている。普段定期的に直接会うような会合が難しいのであればEメールの利用を検討されてはどうか。

発生抑制・再使用の取組みについて、積極的に推進し、その取組状況について公表すること。」

発生抑制とはどんな行動を意味するか。消費者が選択出来る品揃いができているかが大前提となる。昔はどんな包装であったか、不便さはあったか、現在のプラ包装品に満足かなど多くの視点がある。特に菓子・嗜好品には過剰な包装が目立つ。また食料品におけるプラ包装も過剰な場合が多い。納豆は昔ながらの藁包装品が店頭に並び始めた。

レジ袋は必要か(多くの店舗で厚さ半分とした)書籍カバーは必要か、なども消費者の判断である。現状は店舗により当然のこととして消費者に商品と共に渡しているが、散乱ごみ(不法投棄)になっているケースが多い。消費者の行動としてふるしきの持参、レジ袋・本カバーの不要を店舗に申し込むことが肝要である。

再使用に際しては修理して使う場合が多い。DIY(Do It Yourself:自分自身で作る・直す)技術を習得しよう。

これで5Rの実践となり、自分の出すごみはゼロエミッションになると夢見る。

会員の広場

横浜市地球温暖化対策地域協議会 による環境教育 緑区プロジェクト のご案内

北村 博子(横浜市)

子ども達に遺す豊かな環境 エコライフ実践

講座 ~エコ・ハマな暮らし~(全3回)

自然と共存する持続可能な社会実現のために、地球温暖化の現状理解、地球と人の健康について考え、地産地消による健康な食の省エネなど、家庭での身近で効果的な省エネ術を獲得・実践し、地域で普及する講座。

10月1日(日)午後1時~4時:十日市場地区C

・「横浜市:緑の変遷」

- ・ WS : 「身近に実践のできる省エネアイデア」
- ・ ミニ森林浴 : 新治の自然について (映像による)
10月29日(日)午後1時~4時 : 十日市場地区C
- ・ 野菜の声を作り手から聞く
- ・ WS : 「省エネ : 自然の再生産力と私たちの暮らし」
- ・ 地場野菜で、ほうとう試食
11月26日(日)午後1時~4時 : 旧奥津邸(予定)
- ・ 自然力を活かした賢い住まい方
- ・ WS : エコライフ実践を、地域での普及啓発とする
- ・ 野点 : 旧奥津邸と新治の森
対象 : 緑区内在住、在勤者 定員 30人(先着順)
主催 : 横浜市地球温暖化対策地域協議会、横浜市

協力 : 特定非営利活動法人 アース・エコ
 申込 : 9月11日~22日までに
 講座名、住所、氏名、電話番号をファクスまたはEメールで、横浜市環境創造局温暖化対策課宛、お申し込み下さい。
 Fax : 045-641-3490
 Eメール : ks-kyogikai@city.yokohama.jp

横浜市地球温暖化対策地域協議会では、環境教育地域プロジェクトとしてH18年度、旭区、緑区、神奈川区、都筑区、港北区、青葉区、南区・港南区、栄区、泉区、鶴見区で、実施予定。

会員の広場

雨は自然の恵み - 「岳の幟」を見学して

鎌田 裕二 (大和市)

7月16日に別所温泉(長野県上田市)で行われた「岳の幟」を見学した。それは500余年の歴史があり室町時代にその地方を襲った厳しい旱魃の際に行った雨乞いとして始まった祭である。早朝に夫神岳(標高1,250m)に登りその頂上の九頭竜神を祀った祠で祈禱した後、温泉街に降りてくる。温泉街では数箇所獅子舞やササラ踊りを行い別所神社へ向かう。青竹に色とりどりの布を結んだ幟は長野オリンピックの閉会式でも披露された。

長野県上田市は日本でも有数の少雨地帯である。日本の年間平均降水量が約1,700mmであるのに対して上田市のそれは約900mmと少ない。別所温泉一帯にはそのために溜池が散在する。それはその地方の気候



に合った先人達の工夫である。自然の恵みの中で暮らしてきたからであろう。

目の前を通り過ぎる幟の行列は、雨が人間は制御することのできない自然現象であることを思い出させる。水道の完備された現代の暮らし中では水がどこからやってくるのかを忘れてしまいそうである。毎日のように駅まで歩き、バスに乗り、満員電車に乗車する様な

日常の中では雨は嫌われ物かもしれない。しかし、雨は自然の恵みであり、我々にできることはその中で暮らすことだけだ。

しかし、都会ではそこへ降る雨の水を使わない。人工的に舗装された街を排水され川や海へ流されるのであろう。横浜市を例に試算してみた。その水源は道志川、相模川、酒匂川などであるが、それらの河川は自然には横浜市には流れない。横浜市では市内に降る雨の約60%の水道水を使用している。横浜市の水道需要を賄えるはずの雨が降る。自然の恵みの中で暮らせる可能性はあるはずだ。

会員の広場

南米チリからの便り

藤田 滋

皆様、ご無沙汰しています。

5月に入り、突然再就職(日本からのチリへ進出企

業で、農産加工業の会社へ、ローテーションによる長期出張の繰り返し)が決まり、県環境学習リーダー会の役員就任と同時に、辞任と言うハプニングを演じてしまったことをお許し下さい。

チリは、人口は日本の8分の1の16百万人、面積は2倍の756千平方キロもありますが、地図を見てもお

分かりの通りで、南米大陸の太平洋にそって長さ（南北）が 4,300 km、（地球の円周の 10 分の 1 東京 シンガポールの距離）幅（東西）は 175 kmしかありません。一枚の紙に国土を表示すると、どうしてもボリビアとアルゼンチンが大きくなるので、国土を横に三分割して表示していることに驚きました。実に奇妙な形（異常に細長い 1 対 25）をしているのは、太平洋にそってアンデス山脈がある為ですが、18 世紀の欧州移民が、豪州に行くつもりだったが、まだ入植地の残っているこの国に最後に住み着いたといわれており、他の南米諸国に比べ、ラテンの気風がやや少ないような気がします。

南北に細長いことと（南緯 18 度の砂漠熱帯、南緯 58 度の寒帯）北に砂漠、南に南氷洋、東にアンデス山脈、西に太平洋に囲まれた国土は、温暖且つ乾燥、豊富な伏流水、病害虫の少ない環境と、北半球とは正反対の季節の移り変わりを利用し、政府の後押しもあり、1970 年代から輸出指向型の農水産業が発達してきました。輸出している作物の種類は非常に多品種に亘っており、どの作物も管理が行き届き、高品位ではありますが、世界でも有数の収量を誇るという国際競争力のある作物が見当たらないのも、これまた不思議なことです。

我が社では、日本向けの農産加工品を生産していますが、その殆どが、有機栽培、無農薬栽培の作物を原料としたチリならではの物のみを輸出しており、日本の NB メーカーや外食チェーンで利用されています。

チリは世界有数の銅資源を背景に、好調な経済情勢等を反映し通貨ペソはペソ高で推移しており、輸入品の価格低下傾向が続き、国内消費も順調に拡大してお

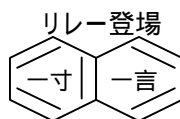
りますが、当然ながら物価上昇、人件費高騰で、第一次産業である農業ビジネスの環境は必ずしも好条件ではありませんが、皆様が何処かで、チリの農産物を見られたら、是非お買い求めください。

畑の写真を 2 枚お送りします。何の畑がお分かりになりますか？（正解は次号に載せません。）



チリ、首都サンチャゴ近郊のタラガンテ市より

ロートル新参が、 気付いた事



上田 恵一（横浜市）

H17 年漸く念願叶い、賛助会員から正会員に成りグリーン部会にこの 5 月加入申請致しました。この 1 年消費生活推進員活動、横浜 G30 推進員、磯環考会、下水道サポーター、デスポーザー新用途検討（地産地消）に参加し色々教えて頂いて居ります。

《環境実践講座》のお陰で、社会的公正性コンプライアンスが話題の時期でしたので、グリーン・コンシューマーの講義中に気付かされた事は、

消費者がマトモに反社会的問題に対抗できる手段は、違反行為事例のデータベース化と各社環境報告書等を解説公表するシンクタンクの設立。

リタイヤ組 OB が職域・学校の垣根を越えて《良心に従い》過っての専門的知恵を持って参加す

ること。

地域の消費生活推進活動に（世間知らずの）リタイヤ組男性を組入れ（再教育しつつ、地域に軟着陸させ）活動してもらう事。

受講以前は、唯、己の得意技の《エネルギー》とか《環境》部会等で地域社会に何かお返しをしたいと考えて居りましたが、《地域の消費生活推進員》となり、男性も役にたつ《場面もあるかなー》と、グリーン部会に加入しました。

リタイヤ後、シニアボランティアとして発展途上国に赴き気付いた事は、途上国は法体系が不備な点を個別の条例違反という細かなことで取締るのではなく、立法の目的・精神で取締る、半ば《人治判断的国家》の発想でカバーしております。これは環境問題にしても教えられるテーマでした。

私共は、法律はある幅を持ち、『どの条例のどの事項に抵触しなければ違反行為で無い』と、細かい技術で論じ、《過小近似》か《過大近似》で行動を規

定し、《立法の目的・精神》で己を規定しないという呪縛に陥り勝ちでした。

これまで一年、様々な消費者活動ゼミや報告会で意見を伺いましたが、お金が無いとかハグラカされるだけでした。

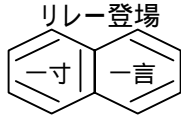
法治国家の陥りやすい、立法の目的・精神を忘れて細かい条例の呪縛を解きほぐす為の《上記のようなシンクタンクの設立の必要性》は如何ですか。夫々

専門家 OB の多いリーダー会は一つのシナップスに成れると思うのですが。

リタイア OB はいきなり自分の専門知識や関心事のグループ活動をする前に、夫々の《地域の消費生活推進員》と成れば、より地域と今後の人生の過ごし方を知る機会を得ることが出来ます。

今回は平塚市在住の船平あけみさんにお願いました。

いっぺい窪における 緑の保全活動



内藤 克利 (座間市)

座間市内のホタル自然発生地が3カ所と少なく、その保全を図ることを目的に「座間のホタルを守る会」が平成15年4月に設立された。3カ所の一つが「いっぺい窪」で、大山巡礼街道の巡礼橋に近く、目久尻川に面した緑地です。他の2カ所に比べ比較的多くのホタルが生息しており、この窪を保全することがホタルの生息地を守ると判断し、請願の結果、やっと今年6月の議会でいっぺい窪保全

が採択された。これからは、市の保全計画に従うことになるが、その計画策定に参加すると共に、市民からの募金及び県民からの基金を集め、広く市民からの賛同を求める積もりである。

斜面緑地の保全を強く求める言葉が踊っているが、市街化地域になっている以上、その声は届かず、いっぺい窪の周囲の土地は樹木を取り払い、マンション用地となり、近い将来いっぺい窪は住宅街に囲われて行くだろう。

今回は募金箱を提供して頂いた相模原市在住、荒谷輝正さんをお願いします。



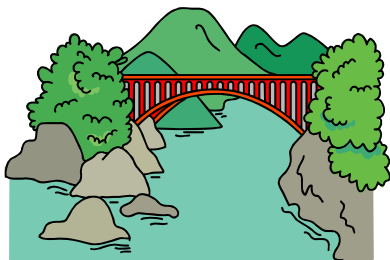
掲示板

広報部からのお知らせとお願い

K・リーダー会のホームページを更新しています。親子で楽しむ環境展のスナップ、環境関連イベント情報、安丸代表によるタンポポ調査のレポート、などを掲載していますので、ご覧ください。

会員の皆様から、こんな情報があるとか、こんなイベントやシンポジウムがあるとか、こんなホームページが参考になるとか、ぜひたくさん情報を広報部までお知らせください。順次、ホームページに掲載いたします。また、イベントやセミナーなどに参加されたレポートもぜひ投稿してください。会員の皆様との情報共有の場として、ホームページが役に立てることを願っています。

皆様のご協力をお願いいたします。



編集後記

喫茶店での持ち帰りコーヒーと言えば、一般には使い捨て容器が当たり前。そんな中、今年の4月から東京と大阪の喫茶店で、持参した水筒(マイボトル)にコーヒーやお茶を割安で入れてくれる「給茶スポット」サービスが始まったそうです。子供づれの親や店内でゆっくりする時間のない会社員の利用が多いのだとか。水筒に入れてもらえれば、ゴミを出さずにいつでもどこでもカフェの美味しい飲み物が味わえます。これからの暑い季節、水筒1本だけでは足りないときも、こういうスポットが身近な場所にあるとうれしいですね。神奈川にも早く登場しないかな。

広報部 杉山 陽絵

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 安丸 元一

編集人：広報部長 鎌田 裕二

TEL/FAX 046-272-7021

発行日：2006年7月31日

ホームページ：

http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/